

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

ク 検証結果<高等学校> B高等学校 第1学年 対象者数41名(うち、回答者数40名)

【検証の視点 I】「あなたのおよここ SAGA シート (自己肯定感チェックシート)」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

【検証の視点 I-A: 「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目】

【検証の視点 I-A-(a): 「自尊感情」に関する項目】

【検証の視点 I-A-(b): 「自己主張・自己決定」に関する項目】

キ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証内容と検証方法を見ることができます。

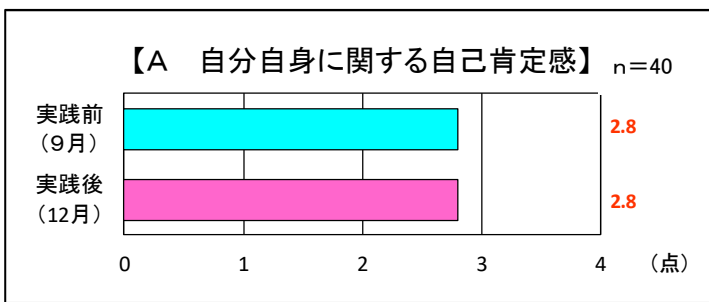


図1 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化 (全体)

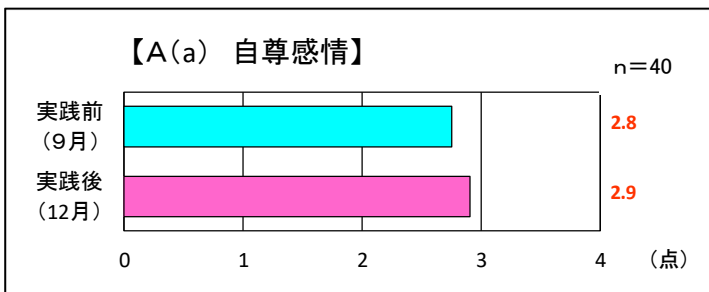


図2 生徒の「自尊感情」に関する意識の変化 (下位尺度)

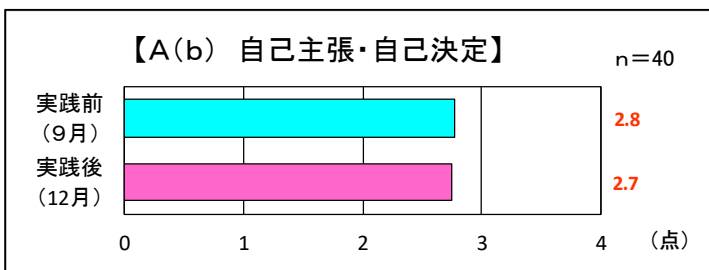


図3 生徒の「自己主張・自己決定」に関する意識の変化 (下位尺度)

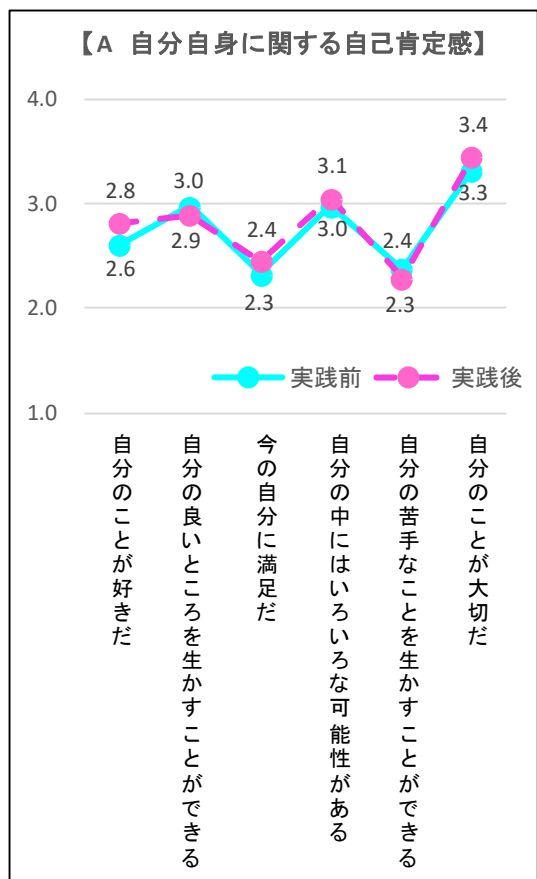


図4 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体での数値に変化は見られませんでした（前頁図 1）。下位尺度や項目別でも数値に大きな変化は見られませんでした（前頁図 2～図 4）。授業実践前から数値が高かったこともあり、数値に大きな変化は見られませんでした。生徒の振り返りシート等には、「自分の『強み』だけでなく、自分が大切にしていることやそこから学べることも見付けることができた」「自分の『強み』は様々な場面で役に立つし、自分自身を支えるものになるので大事にしていきたい」「自分がすでにもっているものが『強み』としてあって、自分は今のままでいいんだと思ったし、それを生かせるかどうかは自分次第だと思った」等の記述が見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が「強み」への理解を深めながら自分の「強み」を知ったことにより、今後、「自分自身に関する自己肯定感」を高めることが期待できると考えます。

**【検証の視点 I-B：「友達との関係を通した自己肯定感」に関する項目】**

**【検証の視点 I-B-(a)：「自尊感情」に関する項目】**

**【検証の視点 I-B-(b)：「自己主張・自己決定」に関する項目】**

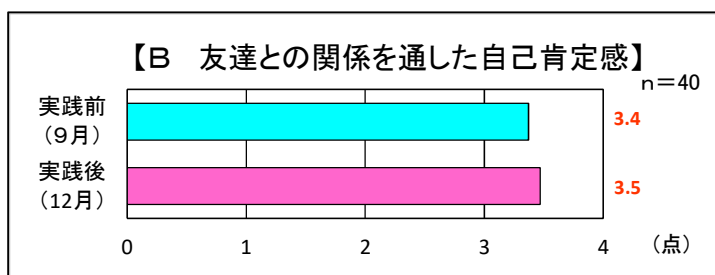


図 5 生徒の「友達との関係を通した自己肯定感」に関する意識の変化（全体）

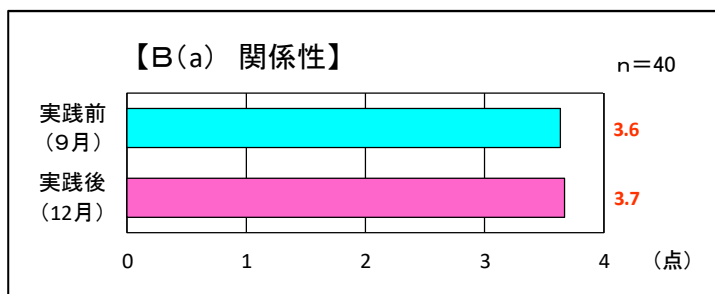


図 6 生徒の「関係性」に関する意識との変化（下位尺度）

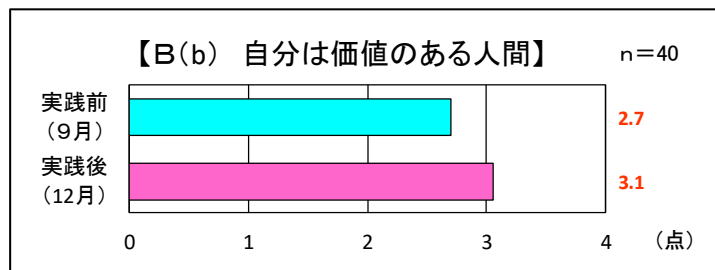


図 7 生徒の「自分は価値のある人間」に関する意識の変化（下位尺度）

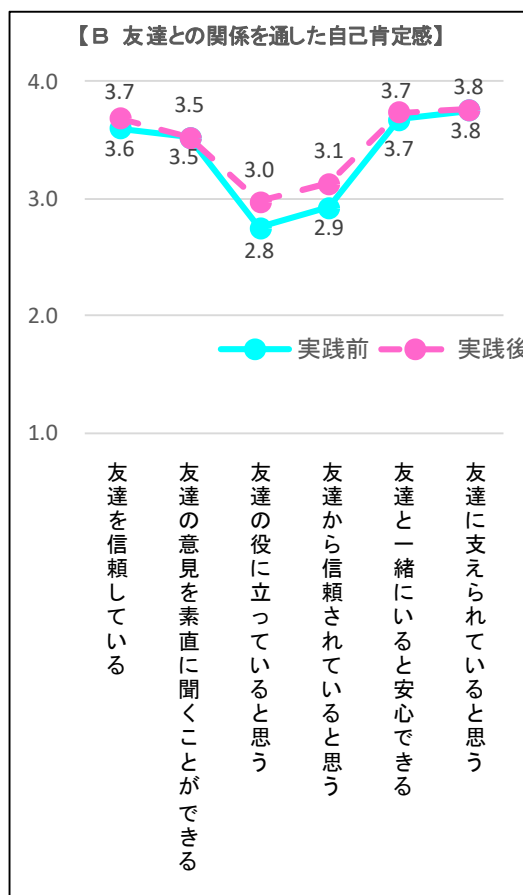


図 8 生徒の「友達との関係を通した自己肯定感」に関する意識の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が0.1ポイント上がりました（前頁図5）。下位尺度では、「関係性」で0.1ポイント、「自分は価値のある人間」で0.4ポイント上がりました（前頁図6、図7）。項目別では、特に、「友達から信頼されていると思う」「友達の役に立っていると思う」で0.2ポイント上がりました（前頁図8）。また、生徒の振り返りシート等には、「自分がみんなからどう思われているのかを知ることができたので、安心した。もっと違う一面も出していきたいと思った」「自分はあまり素の自分を出せていないので、みんなが書いてくれているものにじっくりこなかった。でも、嬉しかったので、もっと自分を出してみてもいいかなと思えた」「自分が知らない『強み』を友達から見付けてもらうことで、今まで以上に自分が好きになったし、もっと自分を大切にしようと思った」「友達の『強み』を知ることができて良かった。みんなには、他の人や私が見付けた『強み』を生かして、その『強み』をもっと大きいものにしてほしいと思った」等の記述が見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに「強み」を伝え合うことは、自己評価が厳しかったり他者からの評価を気にしたりする高校生にとって、「友達との関係を通じた自己肯定感」を高めるために有効であると考えられます。

◎以上のことから、授業実践前では、「関係性」に関する項目が最も高く、それに比べると自分自身に関する項目は低いものの、数値としては高い傾向にあったことが分かりました。その理由として、学級の中で、特定の友達と良好な関係を築いてはいるものの、他者からの評価を気にして不安になったり自分への自信のなさを感じたりしていることが考えられます。実践後には、元々数値が高かったこともあり、大きな数値の変化は見られませんでした。生徒の記述等から、友達から「強み」を伝えられたことにより、安心したり自信をもったりしたことが考えられます。また、友達からの承認に喜びを感じたことにより、更なる自己開示への意欲につながったことも分かりました。さらに、友達の「強み」を見付けて伝え、それが友達に受け入れられたことにより、友達の役に立つという自分の価値を見いだすことにもつながったと考えます。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったと考えます。

【検証の視点Ⅱ】「がばいシート」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

【検証の視点Ⅱ-A：学級の雰囲気】

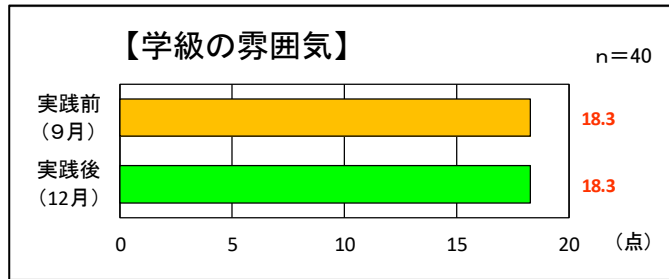


図 9 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化 (全体)

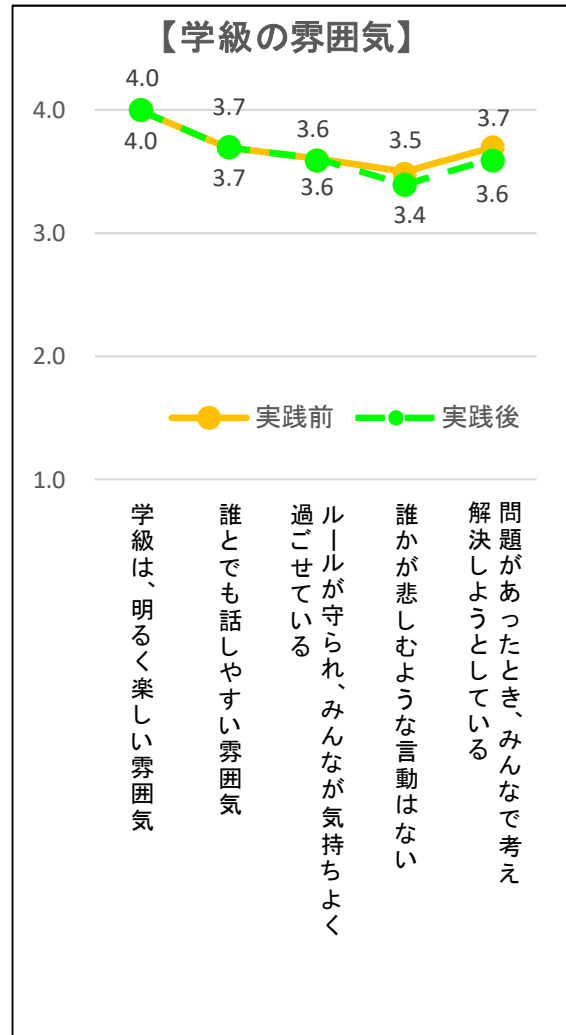


図 10 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体での数値に変化は見られませんでした (図 9)。項目別でも、数値に大きな変化は見られませんでした。しかし、「学級は、明るく楽しい雰囲気」は最高の4.0を維持しました (図 10)。また、生徒の振り返りシート等には、「ふだん、なかなか話す機会がない人と互いに伝え合うことができ、互いのことを今まで以上に知ることができて良かった」「グループの友達が自分をほめてくれたり、友達の「強み」も知ることができたりしたので、これまで以上にクラスの仲が深まったと思う」等の記述が見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことにより、今後、「学級の雰囲気」が良くなっていくことが期待できると考えます。

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

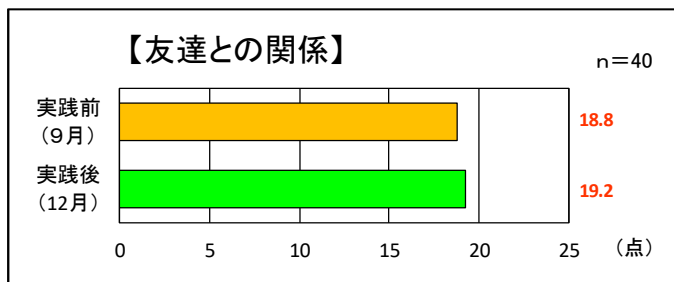


図 11 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化 (全体)

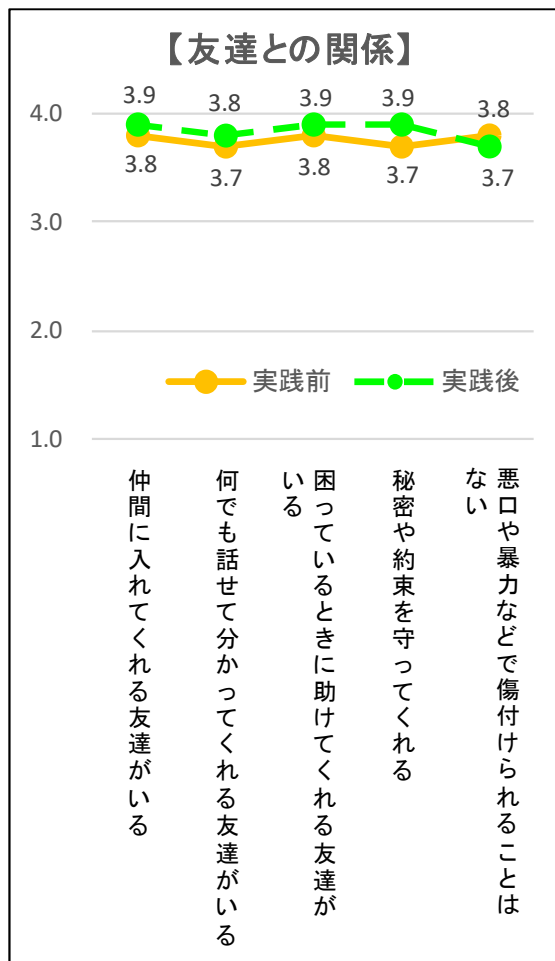


図 12 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体では数値が0.4ポイント上がりました (図11)。項目別では、数値に大きな変化は見られませんでした (図12)。しかし、生徒のワークシート等には、「人の『強み』をどんどん広くしていくことが楽しかった。こんなに良いところがあるんだと気付いてほしいと思った」「友達について多くのことを知れたので、今後の関係を良くしていけると思う」等の記述が見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことにより、学級における「友達との関係」が良くなったと感じられるようになったと考えます。

◎以上のことから、授業実践前から、「学級の雰囲気」「友達との関係」共に数値が高い傾向にあり、実践後には、「学級の雰囲気」は高い数値を維持し、「友達との関係」は更に数値が上がったことが分かりました。その理由として、授業ごとにグループのメンバーを変更して多くの友達と交流したことにより、良好な人間関係を築くことにつながったり、元々あった良好な関係がより良くなったと感じたりしたことが考えられます。また、今後、多様な他者と関わっていくことにおいて、この学習が有意義なものであったと感じたことも分かりました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったと考えます。